

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: <http://www.konbukuroike.com>

2020年9月

第77号

主な予定

日本植物友の会

9月9日(水)

10:30~

「保全活動報告会」発表論文要旨④

こんぶくろ池公園 2019年度昆虫調査要旨

小築ひかる・久保田耕平(東大院農)

1. はじめに

2013年より継続的に調査を行ってきた北地区のSite1(林内湿地)、Site2(林内)、Site3(林縁湿地)、Site4(林内)、Site5(草地)と、南地区のSite6(林縁)、Site7(林内)、Site8(林内湿地)、Site9(林内)、Site10(林縁湿地)の10地点で、3回(6月、8月、9月)のピットフォールトラップ調査を行った。

2. 方法

ピットフォールトラップ調査では、各Siteにプラスチックコップ(誘引剤としてすし酢を使用)10個を2m間隔の格子状に設置し、翌日に回収した。設置・回収には、NPO法人こんぶくろ池自然の森のメンバー各位に多大なご協力をいただいた。採集された昆虫のうち、種までの同定が確実にできる甲虫目について、各地点の種数・個体数の集計を行った。

3. 結果

(1) 今回の調査結果

今年度の調査で19種192個体が採集された。種数は昨年(23種)を下回ったものの、個体数は昨年(146個体)を上回った(表1)。これまでの調査のうち、種数・個体数とも最多であった2014年と比べ、種数は3分の2、個体数は3分の1まで減少しており、昨年からの回復はみられなかった。最優占種は例年同様オヒラタシデムシで、次いでアオオサムシの個体数が多かった。

(2) 2013年以降の採集個体数と種構成の変化

総採集個体数は、10地点での調査を開始した2013年以降、昨年に次いで少なかった(図2)。優占種2種のうち、オヒラタシデムシの採集個体数は昨年より回復がみられた。一方でアオオ

サムシの採集個体数は昨年より減少し、個体数の回復はみられなかった。

オオヒラタシデムシ、アオオサムシ以外の種（以下、その他の種）の採集個体数は過去7年間で最も低い水準となった。

（3）北・南地区ごとの採集個体数・種構成の年次変化

北・南地区ごとの採集個体数と種構成をみると、オオヒラタシデムシの個体数回復がみられたのは南地区のみであり、北地区はオオヒラタシデムシ、アオオサムシ、その他の種すべてについて採集個体数が減少していた（図3、図4）。

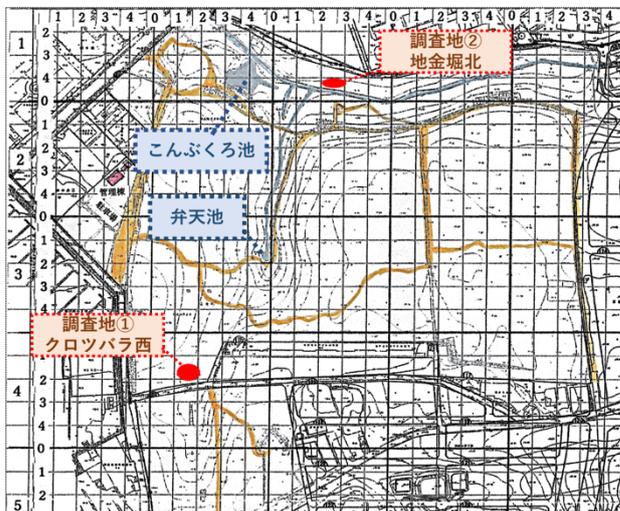
南地区のその他の種の採集個体数は昨年に次いで過去2番目の低水準となり、オオヒラタシデムシの寡占化の進行がみられた。

4. まとめ

今年度の調査結果は、地区ごとに異なる傾向を示した。両地区で昨年激減したオオヒラタシデムシは、南地区では回復がみられた一方、北地区では昨年並みの低水準となった。北地区ではアオオサムシ、その他の種ともに採集個体数が昨年よりも減少しており、オオヒラタシデムシも含め縮小した甲虫類相が回復できていないのだと考えられる。また南地区では昨年止まったと思われたオオヒラタシデムシの寡占化が再び進行し始めた可能性がある。公園として人の出入りがより多くなることで、甲虫類を取り囲む環境のさらなる変化が予想される。今後も継続的な調査を進め、甲虫類群集の変化の把握に努めたい。

「土壌生物による自然の豊かさ調べ」

上田 真佐江



調査地の位置
20m 方眼地図（橋本谷さん作成）を使用

- ① 土壌採取場所：クロツバラ西の林縁および林内

日時：6月6日（土）9:00~16:00

天気：晴れ 気温：23℃

参加者：小川、川瀬、徳永、橋本谷、上田

- ② 土壌採取場所：地金堀北湿地（31番ズミの対岸）

日時：6月9日（火）9:00~16:00

天気：晴れ 気温：24℃

参加者：徳永、上田

作業内容

- (1) 土集め、ツルグレン装置の稼働開始 2台
- (2) 集めた土から土壌生物を採集
- (3) 土から採集した土壌動物、及びツルグレン装置稼働により土から出てきた土壌動物の簡易同定
- (4) 「自然の豊かさ」評価 (青木 1995 年)

A、B、C グループに属する土壌動物がいたら、それぞれ5点、3点、1点を加点する。個体数のカウントはしない。

調査結果

①クロツバラ西 57点 ②地金堀北 60点

	調査年	2017年		2018年		2019年		2020年	
	調査日	5月27日	10月9日	6月2日	9月17日	6月22日	9月16日	6月6日	6月9日
	調査場所	クロツバラ西	地金堀北						
A 5 点	ザトウムシ	5							
	オオムカデ	5	5	5	5	5	5		
	陸貝	5	5	5	5	5	5	5	5
	ヤスデ	5	5	5	5	5	5	5	5
	ジムカデ		5	5	5	5	5	5	
	アリヅカムシ					5	5		5
	コムカデ	5	5	5	5			5	
	ヨコエビ	5	5	5	5	5	5		5
	イシノミ								
	ヒメフナムシ	5	5	5	5		5	5	5
B 3 点	カニムシ								
	ミミズ	3	3	3	3	3	3	3	3
	ナガコムシ			3					
	アザミウマ		3	3					
	イシムカデ	3	3	3	3	3	3	3	3
	シロアリ								3
	ハサミムシ		3		3				
	ガ (幼虫)	3	3	3	3	3	3	3	3
	ワラジムシ	3	3	3	3	3	3	3	3
	ゴミムシ	3				3	3	3	3
	ゾウムシ	3		3	3	3	3		
	甲虫 (幼虫)	3	3	3	3	3	3	3	3
カメムシ	3	3	3	3	3	3	3	3	
甲虫	3	3	3	3	3	3	3	3	
C 1 点	トビムシ	1	1	1	1	1	1	1	1
	ダニ	1	1	1	1	1	1	1	1
	クモ	1	1	1	1	1	1	1	1
	ダンゴムシ	1	1	1	1	1	1	1	1
	ハエ・アブ (幼虫)	1	1	1		1	1	1	1
	ヒメミミズ	1	1	1	1	1	1	1	1
	アリ	1	1	1	1	1	1	1	1
	ハネカクシ	1	1	1	1		1	1	1
合計	70	70	73	69	64	70	57	60	

※おおよその目安

- 60~75点 自然がよく保たれた自然林や神社林
- 55~65点 成熟した雑木林 (二次林)
- 35~45点 若い雑木林や人工林



ヤマトシロアリの幼虫

2017年から調査中にシロアリは出ていない。今回、地金堀北で1個体みつかったが、幼虫なのでカウントせず。

(写真：徳永さん)

25～35点 公園、人家の庭、校庭
15～20点 道路の植え込み

報告

① クロツバラ西



クロツバラ西調査地（6月19日）
黄色と黒の棒の地上部は約120cm。
アズマネザサが茂り、左に大きな落枝が見える。



ホテル跡地前から撮影（6月19日）
写真正面がクロツバラ西調査地

1. **自然の豊かさが急に約10点低下。**2017年6月以来、6月と9月の年2回本調査を実施。自然の豊かさはほぼ70点前後で推移し、2017～2019年の平均値は69点。今回は57点。ほぼ変化がなかった3年間の平均値から急に12点下がっている。

2. **出てこなかったもの。**この調査の評価基準で、環境への適応力が高くどんな変化にも耐えられるとされるCグループに属するものは全て出たが、環境変化に敏感とされるAグループと、中間のBグループに属するものが減少した。

例えば、これまで毎回、何個体も飛び出して来たAグループのヨコエビが出ず、同じく複数個体出ていたAグループのヒメフナムシは1個体のみしか出なかった。

3. **現地の変化。**前回までの調査時には、無理なくしゃがみこんで土の採取ができたが、今回は急にアズマネザサ等の背が伸び間隔が密になった印象を複数の参加者が受けた。2019年9月に複数回大型台風が襲来した時のものと思われる落枝や倒木が複数ある。

※複数の会員に聞いた限りでは、この場所はNPO発足以来調査目的の立ち入りはあったが、NPOによる下草刈りは実施されていないエリア。

4. **環境の変化。**昨年（2019年）9月頃から調査地点の東にあった2棟のホテルが解体され、調査地点の東が急に開けた。また、昨年秋には、写真3の道路（東西方向）と約350m先で交差する南北方向の道路を延長するために、その交差点から北方向（写真3では左方向）の道路予定地の林が伐採された。

5. まとめ

2017年の継続調査開始以来ほぼ変化がなかった自然の豊かさが、急に約10点低下した。一方で、昨年は大きな環境変化もあった。調査地近くのホテル2棟の解体、約350m先の林の伐採、秋には大型台風が複数回直撃。

ただ一度の調査結果ではあるが、環境の変化と時期を同じくして自然の豊かさが大きく低下した。今後も同地点で調査を継続していきたい。

② 地金堀北 (31 番ズミの対岸) … 初めての調査地



地金堀北調査地 (6月19日)
黄色と黒の棒の地上部は約 120 cm

1. 細かい粒の土。表面付近は団粒状の土壌だが、水辺から 6~7m 離れた場所でも数cm掘ると粒子が細かく粘った黒い土が堆積している。
2. 個体数が多いもの、少ないもの。ヒメフナムシ、ヨコエビが多く、ムカデやヤスデの仲間は少ない。
3. まとめ

湿性環境エリアでの調査を目的にこの場所を選択したが、この場所は多様な土壤生物が垂直方向にすみ分けて生息できる場所ではなさそうだ。それでも自然の豊かさは 60 点で、今回のクロツバラ西よりも高い値だった。

湿性環境で自然の豊かさを継続調査するために改めて、土壤動物が垂直方向にすみ分けられるような場所を探し、新たな調査地で調査を実施したい。

T-KIDS シェアスクールイベント

『夜の昆虫観察会』を振り返って

徳永 さと子

8月12日(水)、T-KIDS 主催による『夜の昆虫観察会』が当公園を会場にして開催されました。参加してくれたのは、8歳~12歳までのお子さん6名と保護者の皆さんの合計12名です。外部サポーターとして、日本アンリ・ファール会のスタッフ3名も駆けつけてくださいました。

午後からの雷雨で開催が心配されましたが、参加された皆さんの思いが通じ、なんとか予定通りに催行することが叶いました。挨拶の後、コロナ感染予防の意味も含め、少人数で観察ができるように親子3組ずつ2つの班に分かれてのスタートです。観察するのは、①ノジトラノオやクララなどが生える開けた草地、②樹液が滴るクヌギの前でのライトトラップ、③弁天池~こんぶくろ池周辺の園路の3か所です。最後に全員で採集した昆虫の観察をしました。それぞれの場所での様子をご報告致します。

① ノジトラノオの草地

小雨がぱらつく中、なかなか昆虫を見つけることができずに焦りましたが、目が慣れてくると、葉っぱの裏で雨宿りをする蛾や、足音に驚いて出てきたバッタなどを、お子さん達が次々と見つけていきました。もう会えないかなと思っていたシロコブゾ



ウムシも、ちゃんとクララの茎に掴まって、お客さまを出迎えてくれました。

「これ、オニグモ？」クモの種類まで見分ける男の子もいました。すごいですね！昼間の下見の際に見つけた大きな網を張ったコガネグモ、そしてその網にちゃっかり居候するイソウロウグモも観察したかったのですが、残念ながらお留守。同じクモの仲間でも、昼間に活動するものと、オニグモのように夜だけ活動して朝には網をきれいに片づけて隠れてしまうもののがいることが分かり、参加者の皆さんも興味を持たれたようです。



② ライトトラップ

ライトトラップとは、簡単に言うと昆虫の走光性を利用して、ライトを使って昆虫を誘引する仕掛けです。特に水銀灯やUVライト、蛍光灯からは、昆虫の好む波長の紫外光が出ている為、月明りや街の明かりが届かない条件下で効率よく昆虫を誘引することができます。

さて、観察会当日は下弦の月。真夜中になってやっと昇ってくる為、月明りの心配はありません。ただ、降り続く小雨の為、期待していたシタバガやスズメガなどは姿を見せてくれませんでした。それでも、立派な触角のコフキコガネや、夜間活発に活動するアオドウガネ、またミンミンゼミ、ヒグラシ、アブラゼミなどのセミの仲間や、トンボまでもが飛来し、普段近くで観察することが難しい昆虫達を目の前にして、お子さん達は目を輝かせていました。



ライトトラップの後ろのクヌギの木では、樹液レストランに集まるカブトムシやカナブンの他、小さな昆虫達の観察ができました。洞の奥にコクワガタを見つけた男の子は、指を使ってクワガタを引っ張り出そうと試みましたが、すき間にピタッと入り込み、しがみついてビクともしません。平たい体型の彼らの暮らしぶりが垣間見れた1シーンでした。



③ 弁天池～こんぶくろ池周辺の園路

園路にはあらかじめバナナトラップを数か所設置し、糖蜜も幹にスプレーしておきましたが、天候のせいか、トラップの効果はありませんでした。がっかりしたのもつかの間、耳の良い参加者の皆さんが、茂みで翅をふるわせて鳴いている虫を見つけてくれました。スイーチョンの鳴き声から、ハヤシノウマオイのようです。小さなササキリの赤ちゃんにも会えました。

先へ進むと、園路沿いのロープにつかまった、正に羽化したばかりのセミに遭遇！乳白色に淡い翡翠色の翅脈の入った翅を、ゆっくりと伸ばしている最中でした。セミの羽化はその後も幾つか見付き、参加者の皆さんは夜の観察会ならではの醍醐味を味わいながら、カメラのレンズを向けておられました。



その後も卵や蛹を啜えて運ぶアリの大行列に出会ったり、池の水をライトで照らしてヤゴでもないかと探してみたり、またそのライトを消して真っ暗闇を体感してみたりと、夜の森はわくわくでいっぱいでした。昆虫以外にも、夜間のみ開花するカラスウリの花も観察することができました。

約1時間半の森での観察を終えて管理棟前に戻りました。管理棟前では、採集できた昆虫を虫かごに入れてみんなで観察しながら、その夜見つけた虫の確認（虫合わせ）をしました。

カブトムシ、コクワガタ、カナブン、コフキコガネ、アオドウガネ、ビロードコガネ、ミヤマカミキリ、ヨツボシケシキスイ、シロコブゾウムシ、モリチャバネゴキブリ、カマキリの仲間、オンブバッタ、ショウリョウバッタ、キリギリスの仲間、ハヤシノウマオイ、ササキリ、ツチイナゴ、ノシメトンボ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシ、アカハネナガウンカ、チャバネアオカメムシ、サトキマダラヒカゲ、ベニスズメの幼虫、タケカレハの幼虫、ザトウムシの仲間、ミズジコウガイビル、ヒダリマキマイマイ、オニグモの仲間、クサグモの仲間、ジョロウグモ、イオウイロハシリグモ。

種名の分からなかったもの、鳴き声だけで姿が確認できなかったものなど、他にもたくさんいそうです。

アンリ・ファール会の梅田先生からは、カブトムシやカミキリムシの持ち方も教えて頂きました。最初はトンボも触れなかった女の子が、しっかりとカブトムシを持つことができ、先生も「すごい！」と目を細めて感心されていました。そのうちに、メスのカブトムシの前胸に毛がはえていることに気付き、オスの前胸はどうだろう？と疑問を持ったお子さん達が、かわるがわるカブトムシに触れて確かめていたのが印象的でした。やはり図鑑やテレビからの知識だけでなく、実際に触ってみることの大切さを痛感します。もともと生き物が好きなお子さん達、本物にどんどん触れて好奇心の世界を広げて行って頂けたらと思います。

是非今度は、昼間の公園にも観察に来てくださいね～、とお誘いをして閉会となりました。閉会後は、会員の中川さんがお持ちくださったカブトムシや、上田さんが作られた虫の目の秘密が分かる資料、ファール会から昆虫缶バッジなど、お土産をお配りして解散となりました。



参加された会員の皆さんの声

- 蟬の羽化が見られたのは夜ならではでした。また、子供たちは、好奇心をもって、少しずつ虫に触れるようになり、興奮気味に楽しく過ごしていたのが印象的でした。
- 保護者がとても熱心にかかわっている姿が印象的。子どもと一緒に楽しまれていた。
- 園路でロープに羽化中の蟬を発見した。それぞれの羽化段階の違いを観察できた。翅がどのように伸びるのか、アンリ・フェアブルの会の方に教えていただいた。近くの公園で、自分たちでも後日じっくり観察してみたいと話していた。
- こんぶくろ池に来るのが初めてという参加者さんが多く、夜の弁天池や途中の橋など、こんぶくろ池の散策では、ちょっとしたアトラクションのように楽しんでいただいていた。
- 夜の森は、お化け屋敷のようでとてもドキドキした。自分自身童心に戻って観察できた。
- 最後に各班が虫を見せ合って伝え合う際、森・草地・樹液など、虫がいた場所によって仲間分けしてみると、気づきが増えるかと思いました。
- テーブルにライトがあると良かった。

最後に、事前の準備が不十分であったにも関わらず、検討会にご参加くださった皆さま、当日ライトトラップやテントの設営や片けなど、臨機応変にご対応くださった皆さま、ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

こんぶくろカフェ

～こんぶくろ池夏季句会・歌会作品集～

松田 和生

今回は、コロナ禍や長梅雨に続く猛暑などにもかかわらず、9名の方から夏ならではの俳句九句、短歌九首が寄せられました。

俳句では十年？ぶりに本公園に立ち寄ったという方、夏の日照りや蝉の泣き声などに季節を感じた方々から、生き生きとした作品が寄せられました。

短歌では大切なものを失った寂しさや、任務に対する一途な思い、オオタカへの愛情、雲の綿菓子、夕暮れの森などが詠まれた歌が印象的でした。

俳句・短歌にはオリジナリティ（独創性）やリアリティ（現実感）が大切といわれています。今回は秋季（9月～11月）になりますが、投稿箱の他、世話人あてのメールでも結構ですので沢山の応募をお待ちしています。

俳句の部

真夏日に十年ぶりのこんぶくろ	旅人
暑い日に木陰差し出すこんぶくろ	権兵衛
日照り避け自然散策こんぶくろ	権兵衛
ひぐらしの音が響きしこんぶくろ	昇多
蛸（ひぐらし）の声に誘われ夕涼み	中川 望
立秋も暑い暑いと蝉が鳴く	秀夫
三重苦コロナ猛暑に工事音	米山 要
マスクせずひとりのんびり野良仕事	米山 要
長梅雨やコウガイビルの長さかな	わらしべ

短歌の部

薄暗き雑木林に蛸の 声は響くよ自然公園	権兵衛
ぬかるみの散策道に雨降りて ずぶぬれになり造る木道	権兵衛
毎朝の散歩の途中で思い出す 二人の天使のつぶらな瞳	中川 望
コロナ禍ににぎわい消えた夏の日々 雲の綿菓子祭りを想う	中川 望
この夏は悲しい出来事二つあり 友の他界と同志の脱会	ノー・ボール
大鷹よ羽ばたく君に見えるだろうか こんぶくろ池の深淵が	ノー・ボール
夕暮れの風に吹かれてオレンジの 花卉が誘う盃蘭盆の森	秀夫
さみだれに沈む森には人気なく 雲を切り裂くオオタカの声	やま丘
夏盛る自然の森の遊歩道に 捕虫網（あみ）持つ子らの歓声がして	わらしべ

「自然を楽しむ喜び」 その②

矢島 修二

草本貴重種の分布を落とすインベントリーマップが出来たところでのいよいよ調査の開始。さて貴重種はどこに、今でこそ分布場所が判っていますが当初の数年間は何もかも新発見、見つけた時のその感動は最高でした。

開花時期に個体数をエリア別にカウント、それは楽しい一時で、あちこちで「あったぞ」と声がる度にニコリしたものでした。でも失敗もありました。コ克蘭、クモキリソウを増やそうとしてロープで囲い周辺の下層植物を取り除き、少し林冠を明るくし期待をして翌年を待ちましたが、・・・逆に減少してしまいました。

良好な自然環境の保全や再生の難しさを痛感、気候の変動かな？と思ったりも・・・。10数年経った今では皮肉にもロープの外側で増加しています。

また、手賀沼周辺、利根運河、布施下土手、東大の森へとリーダーと金子さんのガイドで植生観察に出向き、他地域の実態を知るいい経験もしました。何故、こんぶくろの森にヤマユリ、ニリンソウがないのだらうとか。タコノアシ、ワレモコウ、フデリンドウの勢いの差に驚いたりもしました。

2010年4月NPO設立、調査班も再編され市川リーダー以下、メンバーも増えて再スタートします。従来の活動範囲に一号近隣公園エリアが加わることになりました。何年も放置されたゴルフ場の跡地だけに落葉広葉樹、針葉樹、造園植栽が混交林化、林間ではアズマネササが密生、セイタカアワダチソウもあちこちに・・・。

であっても、こんぶくろ池と同様の湿地環境が残っていることに驚きと期待もありました。特にハンノキの群落、下層のカサスゲと併せ、新緑時の景観は鮮やかで素晴らしい。近隣の雑木林ではクヌギ、コナラ林はよく見かけますが、ここでの纏まったハンノキ林、こんぶくろ池湿地のシンボル、大事にしていきたいです。

かつてハンノキは、こんぶくろ池から市場近くの地金堀への流れに沿って点々と在りましたが、今では開発に押され多くが伐採され残念で寂しい限りです。花を付けない痩せ細ったズミも数本を確認、枯れずに生き残っているとは驚きです。

ここでの最初の活動は、整備する前に荒廃した林内での慣れない測量と縄張りの実施。公園づくりの為に植生、毎木調査と続き、レイアウト（残す、移植、伐採か）の検討までと意外と楽しい一時でもありました。更に公園予定地にあったトモエソウ、アマナ、ワレモコウ、タカアザミ、メハジキの移植作業（畑づくり）が加わることにもなりました。大がかりな移植は初めてとあって、はたして翌年まで順調に根付くのか心配でしたが、今では、トンボ池南面でトモエソウ、メハジキが、手作り広場斜面でアマナが元気に育っています。

(次号に続く)

8 月理事会

(日時) 2020 年 8 月 29 日 (土) 10:00~12:30

(出席者) 岡本、上田、北田、藤原、中川、萩原

1. 審議検討・確認事項

(1) 植生管理計画検討会 (8/5) 結果報告

- ① 植生管理計画の基本的な考え方・・・直径 30cm 超える大径木伐採、冷温帯植生保全等
- ② 植生管理計画のゾーニング・・・コリドー地域のゾーニング等
- ③ 植生管理手法の考え方・・・ハンノキ・クヌギ・コナラ・イボタも含めて保全計画
- ④ 植生管理計画内容・・・昆虫と植生の保全、地下水の水源確保で管理
- ⑤ 北側通路・水路について・・・雨水管の懸案事項は、工事全体の目途が立ってきた時期に討議
- ⑥ 追記・・・詳細な伐採計画を織り込む予定、周囲の雨水浸透計画を確認する

議事録と検討会資料を閲覧できるように、管理事務所に置いてあります。

(2) 昆虫標本の寄贈依頼

- ・ 千葉県昆虫談話会に当園で採取した昆虫標本の寄贈依頼を行う (上田)
- ・ 保管場所は事務所横倉庫とし、紫外線をさけて保管・展示し、観察会等で利用
- ・ 福田先生から寄贈され、現在旧幼稚園に保管されているロッカーは、もう暫く移動は行わない

(3) ナラ枯れ対応

- ・ 柏市の対応確認しながら、伐採した木の処理含めて、当園で先行作業検討 ⇒ 対象は直径 30cm 以下のナラ枯れ被害木。

(4) 今後のズミプロジェクト運営について

- ・ 現ズミプロジェクトメンバーにて、今後の運営方針を取り纏め、別途理事会に報告 ⇒ 来年の活動計画に織り込むよう、本年度内に計画を纏める
- ・ 里山班&調査班ともさらにコミュニケーションをとり、組織として推進していくよう計画する
- ・ サワシロギク等の湿性植物に関する保全計画は、別途検討する (上記の関連性含めて)

(5) 会員・サポーター募集のための里山保全活動体験会の開催

- ・ 11 月に「体験月間」と位置づけ、活動日に実施 (10/15 「広報かしわ」に掲載予定)
- ・ 9 月末までに、具体的な体験実習の内容を確定し、チラシを作成
- ・ 各回 6 名程度、事前申し込み要

(6) キノコ観察会 (10/18) の準備状況について

- ・ 9/14 に観察経路・観察方法等詳細打合せ ⇒ 調査班
- ・ 9/15 「広報かしわ」掲載、受付方法は Fax 又はメール ⇒

受付台帳管理

- ・ チラシは 100 部早急に印刷（萩原外部発注）
- ・ 9/20 合同活動日に里山班・調査班打合せて、観察路整備内容決定 ⇒ 10/10 作業実施

(7) ユニフォームの購入について

- ・ 在庫 3 着なので、夏用メッシュタイプ採用可否含めて新規発注

(8) 寄付金及び助成金支援状況について

今後寄付者の了解の上、名前を HP に掲載していく（法人及び 1 万円以上の個人）。

2. 報告事項

- ① カシニワ制度助成金交付決定(8/11)
- ② コープみらい財団助成金応募(7/21) ⇒ 選考結果連絡は 9 月中旬までにあり
- ③ 「刈払機」講習会（8/20）当 NPO より 10 名参加
 - ・ 今後、当 NPO の刈払機メンテナンス・ルールの作成が必要
- ④ 千葉大 ボランティア実習学生受入決定（8/7） ⇒ 1 名

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。

新入会員紹介

奥村 悦夫さん



参加の動機：私の大事な散歩コース。開発が進むこの地域の貴重な自然を大事にしたい。

趣味・好きなこと：テニス、ゴルフ、トレッキング、音楽鑑賞

貢献できそうなこと：事務、英語の案内

ひとこと：自然公園の整備について、何の経験も知識もありません。少しずつ皆様から教えていただきながらやっていきます。よろしくお願ひ致します。